

令和 6 年度 伊丹市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：1 名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

◎医療・介護・地域支援サービスの連携を図るためのネットワークの構築および強化

- ・専門職間のつながりと今後の体制づくりを検討する「認知症ケア多職種研究会」の開催
- ・認知症ケアに関わる専門職を対象とした「認知症ケア多職種協働研修」の開催
- ・地域ケア会議における専門的な見地からの助言
- ・認知症初期集中支援チームの活動支援
- ・市内の認知症疾患医療センターとの連携による事業の拡大
- ・認知症かかりつけ医や認知症専門医、市外の認知症疾患医療センターとの連携による個別支援

◎認知症の人やその家族への早期支援を目指した相談支援体制の構築

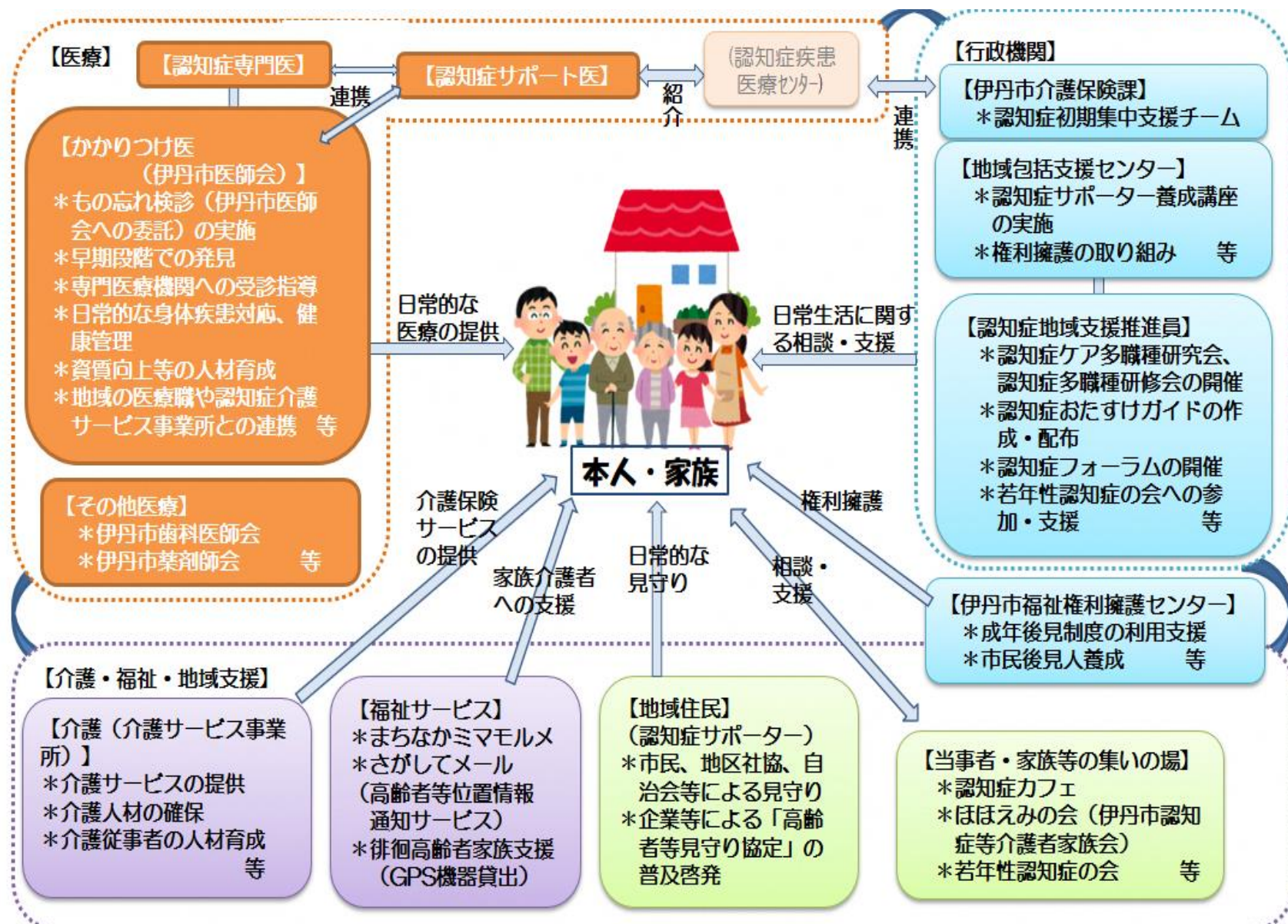
- ・認知症カフェの立ち上げ支援および本人や家族支援の検討
- ・当事者会、家族会、ボランティアグループとの連携および活動支援

◎地域への普及・啓発事業の企画および実施

- ・市内全域を対象とした認知症サポーター養成講座の実施
- ・認知症キャラバンメイトや認知症サポーターの活動創出およびフォローアップ
- ・市民を対象とした認知症フォーラムの開催

報告者氏名: ●伊丹市地域包括支援センター 認知症地域支援推進員 田中 友紀
●伊丹市 介護保険課 末次 真紀

伊丹市 認知症施策全体図



標題⑤【認知症疾患医療センターとイベントの協働開催】

「第3回いたみオレンジフェア ～認知症、1人で悩まず共に繋がろう～」



開催日時:令和6年9月26日(木)14:00～16:00

共催の経緯:令和4年度に市内の認知症疾患医療センターが、世界アルツハイマーデーに合わせた認知症啓発イベントを企画。市および認知症地域支援推進員に共催依頼があった。地域住民に向けた普及啓発は大切な活動であるため、協働で実施。今年度も内容をブラッシュアップして開催した。

開催目的:市民が認知症に関する知識や相談窓口、医療機関について知ること。また、認知症について1人で悩んだり抱え込まないように相談機関の他、地域の社会資源を知り、繋がる機会にする。

参加対象:伊丹市民(42名来場)



●役割分担

機関	事前準備	当日の役割
認知症地域支援推進員	●認知症カフェと家族会代表者への協力依頼(パネル掲示の為) ●案内チラシの作成 ●P Rと参加申し込み受付 ●掲示用パネルの作成 ●家族会代表への登壇依頼	●会場設営 ●司会進行 ●個別相談対応 (地域の社会資源)
市(介護保険課)	●会場予約(減免申請) ●パンフレットや介護保険の手引き等展示物の準備 ●事例(寸劇)の練習	●会場設営 ●受付 ●事例(寸劇)の役者として出演 ●個別相談対応 (介護保険制度)
認知症疾患医療センター	●疾患医療センターのリーフレット等展示物の準備 ●掲示用パネルの作成 ●講義資料の作成 ●事例(寸劇)の練習	●事例(寸劇)の役者として出演 ●事例について解説 ●個別相談対応 (症状・治療・対応等)

前半

ロールプレイ(寸劇)「認知症の方への接し方」

- 会場に舞台を作り、疾患センター職員、市職員、包括職員で寸劇で表現
- 推進員と医師は舞台端からコメント。寸劇の合間に医師から「接し方」について助言してもらう。

テーマ	ストーリー	登場人物
道に迷う 	アルツハイマー型認知症により、外出しては道に迷う母。近所の人気づいて家まで送ってくれるが、何度も繰り返すため娘は疲れてしまう。	○認知症の母(センター職員) ○娘(市職員) ○ご近所さん(包括職員)
認知症になったら何 もできない？ 	認知症により今まで出来ていたことがスムーズに出来なくなった祖母。心配した家族は先回りして家事をするが、役割がなくなった祖母はさみしそう。認知症になると本当に何もできないのか？	○認知症の祖母(センター職員) ○娘(市職員) ○孫娘(市職員)
本人・家族を 支える場について 	家族受診で認知症になった夫のことを相談する妻。近くに頼れる親戚もいないため1人で頑張ろうとするが、心配した医師が家族会や当事者会の存在を伝える。	○医師(センター長) ○娘(センター職員)

後半

講義「家族・当事者を支える場」

市内の家族会・当事者会について紹介。それぞれの代表者から会の様子や思いをお話しいただき、来場者に生の声をお届けした。

◎協力いただいた団体

「介護者のつどい」代表 藤田 静夫 様

「若年認知症の会ふらっと」代表 水木 直子 様

常設

「展示・資料コーナー閲覧＆質疑応答」

認知症に関する相談窓口や集いの場に関する資料、書籍などを閲覧できるようにした。



【まとめ】

- 疾患センターの強みは**医療者としての知識**を提供できることである一方、市・推進員の強みは企画や**全体構成**、各団体への協力呼びかけである。両者の強みを生かして、企画・開催することが出来た。
- 医師自らが舞台上でコメントしたり役者として演じてくれたことで、内容の分かり易さだけでなく、来場者にとっては医師の存在も身近に感じたり、地域に認知症理解が根付くことを市内の医療機関も目指していることが伝わったのではないかと思われる。
- 今回は当事者会・家族会の代表にも登壇していただいたことで、来場者に当事者・家族を支える社会資源の存在が伝わり、また、登壇者同士の顔合わせの場となった(疾患医療センターと当事者・家族会)。今後も認知症の理解・普及啓発と共に、関係機関同士の繋がり作りにも取り組んでいきたい。



【その他 実施・参加した事業】

- 認知症サポーター養成講座
- 認知症サポーターステップアップ講座
- 4市1町合同キャラバン・メイト研修(近隣市の担当者と協力)
- 認知症多職種協働研修(市内の専門職を対象)
『家族支援について～変化する家族の状況と支援者としての考え方～』
(ソーシャルワーク&カウンセリング「きくまなぶ」高落 敬子氏)
- 認知症ケア多職種研究会
医師会・歯科医師会・薬剤師会、ケアマネジャー、民生委員児童委員、
家族会、認知症疾患医療センター、キャラバンメイト、社協等それぞれの
団体より選出されたメンバーで構成され、認知症にまつわる市内の
課題について共有・検討する。
- 若年認知症の会への協力(助言・情報提供等)
- 医師会主催の認知症対応向上委員会への参画
- 認知症初期集中支援チーム会議への参画

等

